

認知症の人と接するときの大切なこと

認知症の人を支援しようと思わずに、まずはコミュニケーションを深め、関係を築くことが大切です。認知症の人とのコミュニケーションのとり方と、行動・心理症状があらわれたときのかかわり方のヒントを紹介します。

●●● コミュニケーションを深めるためのポイント ●●●

ポイント1 ひとりの人としてふつうに接する

○認知症の人という先入観や偏見をもたず、その人自身をみる。

ポイント2 自尊心を傷つけない

○ちぐはぐな言動がみられても、否定したり訂正したりしない。
○弱者扱い、子ども扱いしない。

ポイント3 笑顔で楽しく

○笑顔とやさしいまなざしで、楽しい雰囲気づくりを。
○本人を緊張させ、おびやかさないように、関わる方が力を抜く。

ポイント4 視野に入って話す

○近づいて本人の視野に入ってから話す。
○本人を上から見下ろさず、できるだけ姿勢を低くして接する。
○本人の目を見て話す。

ポイント5 聞こうとしている姿勢を示す

○いきなり手出しや口出しをせず、ひと呼吸待つ。
○まずは本人の声に耳をすます。
○言葉がうまく出なかったり、ちぐはぐなことを言ったりしている場面でも、うなづきやあいづちをして、こちらが受けとめていることを伝える。

ポイント6 ゆっくりとひとつずつ話す

○本人が受けとめ、考え、反応を返せるように、ゆっくりとしたペースでかかわる。
○一度に多くのことを話すと混乱する。情報を伝えるときには、短い言葉で順を追ってひとつずつ話す。

認知症の人への対応の心得
” 3つの「ない」 ”

- 1 驚かせない
- 2 急がせない
- 3 自尊心を傷つけない



ポイント7 なじみのある言葉を使う

○本人がよく口にする言葉や方言など、本人がなじんでいる言葉を使う。

ポイント8 本人が好むことやなじみのあることを話題にする

○本人が好きなことや得意だったこと、うれしかったエピソードなどを聞いてみる。
○本人になじみのある写真や物品を見せたり、手に取ってもらったりして、本人が語るのを聞く。言葉が出なくても、表情や目で反応することもある。

ポイント9 不安や不快を感じていないか、注意をはらう

○本人の表情や言動をよく見る。

ポイント10 本人に必ず聞く、たずねる、確かめる

○まわりが決めてしまわずに、どうしたいかを本人に聞く。言葉が出ない場合でも、たずねてみて反応を確かめる。

日常生活での困りごとについては、下記までご相談下さい。

◆介護手当について◆

認知症状の悪化により、家族の介護の手間が増えてきた場合や寝たきりの状態が3ヵ月以上持続している場合は、介護者に対して月5,000円の介護手当が支給されます。

・与論町役場 町民福祉課 97-4992

◆お金の管理等について◆

預貯金の出し入れや年金、福祉手当等の受領に必要な手続き等、お金や大切な書類の管理等をお手伝いします。

・社会福祉協議会(福祉サービス利用支援事業) 97-5042
・地域包括支援センター(成年後見制度) 81-3072

◆配食サービスについて◆

独居高齢者や高齢者夫婦世帯等、食事作りが難しくなってきた方を対象に、宅配食を提供し、在宅生活を支援します。

・地域包括支援センター 81-3072

◆介護保険サービスについて◆

リハビリをするためにどこかへ通いたい、食事作りや掃除ができない等の生活全般の相談にのります。

・地域包括支援センター 81-3072
・社会福祉協議会 97-5042
・居宅介護支援事業所
◎与論徳洲会病院 97-5300
◎かざはな 97-5071
◎ヨロン園 97-2285

☆☆認知症等について気になることがあれば、何でもご相談下さい☆☆
与論町地域包括支援センター 電話 81-3072
(旧町立診療所北側、保健センター隣)